

当事者の声

この病気になって20年 曾根 朗

人生をすてた あらゆるものも 会社人間ではない
人にせめられて心がこっせつして新たな心殺す
死のうと、何度思ったか 20年。
生き方変えて、世間にずっといじめられて55年、
できない子と言われ続けて、気持ち殺して、
家族という世からはなれて、さかなになった自分。
生きるのも一人なら、生まれるも死ぬも一人。
生老病死のくりかえし。
四苦八苦しなから、耐えながら20年以上。
さみしくもまた、おもしろおもしろいのも自分。
好きな人ができても、この病と年を考えたら、
別れをえらぶ。たとえ、恋をしても。
おもしろおもしろい自分には選べない。
たとえ恋しても、いずれは孤独。病気なのだから。
長い目でいうと、今の僕をたすけてほしいと
願うなり、これ以上苦しみたくな

(病気になるって20年の節目の思いを寄せて頂きました。)



茂雄のカラフル漫画



太郎の漫画

お願い

～賛助会員になってください～

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円
(会費は、法人の運営費に充当されます。)
～ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください～
払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。
☎ 0794-85-9990 ・ FAX 0794-60-4533

編集後記

コロナ禍は自主休校、不登校の学童、子育てにも精神的にも悪い影響をしている。一方、近くのミッキーホールで展示を企画した三木芸文会の一人在、芸術はコロナ禍で引きこもりがちな私たちに癒しになり、鑑賞者は密になることはないのに、自粛の要請でも、なぜ会場を貸してくれないのかとその新聞に記していた。

周知のように、画家ゴッホは自殺前の十年間に二千点以上の作品を制作した。自ら入院した精神科療養所での、彼の作品にも今、天才の才能にほれほれする。うとうとい、心病むような日常に魂の叫びが響く。

(伊東)

『直観』を信じますか？変な入りですが...なぜかふと「これだ」とか「今だ！」と思う瞬間ってありますよね？私は、なかなか石橋を叩いても渡らず、へたしたら橋を崩して渡れなくなってしまうくらい決断に迷います。それこそ外食のメニューですら大変です。ですが、なぜか何の迷いもなく「これだ！」と臆することもなく突き進むタイミングがあります。もちろん、「失敗したー」となることもありますが、不思議と後悔もないし、決断してよかったと思うことも多いです。

情報過多のご時世。自身の直観や思いも大切に日々の選択をできたらいいな、なんて思います。(北上)

そよかぜねっと通信

就労継続支援B型事業所
やすらぎ工房
共同生活援助事業所
そよかぜはうす

〒673-0521 三木市志染町青山1丁目26番地
☎ 0794(85)9990 FAX 0794(60)4533
mail: yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp
URL: http://yasuragikoubou.main.jp/

「存命の喜び」を！

理事長 伊東久雄

東京オリンピック・パラリンピック寸感



一年延期開催された東京オリンピック・パラリンピックの派手な報道と論議が私たちに届いた。その中で、アスリートたちの必死の活躍ぶりが心に残った。とりわけ、障害者の信じられない姿、例えば目が見えなくてサッカー、バスケットボール、手足がそろっていない競走等が心に焼き付いている。日ごろの訓練と才能と強い精神力があればこそだと痛感した。

オリンピック理念として「多様性と共生」が掲げられた。パラリンピック参加資格の制約があるが、このフレーズは日本で400万人以上いる精神障害者にも当てはまる。彼らのスポーツによるリハビリは知的、身体障害者と共通する。そのことが、オリンピック・パラリンピック論議で無視されて

<↑2012年オリンピックからクロッキー> いると思った。

コロナ禍に『正しく恐れるとは』

人の出産のとき、精子と卵子の結合に体内免疫ウイルスがかかわる画像視聴(7/4NHK「ウイルス対人体」)。ウイルスの1%以下が感染症を引き起こすだけで、例えば、CO2循環や雲の形成にも海洋の膨大なウイルスが関係するという。病原菌の一つとして電子顕微鏡でしか見られない微細なウイルスが、究極的な寄生生命体であり、疫学専門家山本太郎氏は『感染症と心地よくない共生を凶っていくしかない』という。気候変動を呼ぶ環境破壊が野生動物から人へウイルス寄生とつながる。

毎日メディアはコロナ情報であふれている。グローバル世界で未曾有の情報の中で「正しく恐れる」とはひとりとり己の体の免疫力アップ、そして科学的知識の習得等を尽力し、”不必要に恐れない”ことではないだろうか。同調社会にあおられず、自ら考えるようではないか。その世界史によると、戦争より犠牲の多かった感染症は人類最大の災害であったのだ。その闘いの延長上に私たちはいる。

『存命の喜び』を日々楽しまざらんや

周知のように、兼好法師の徒然草からの引用。感染症による哀しい犠牲でなくとも、災害、犯罪、病などで、誰でも本人が愛する人が予期しない最後を迎えるかもしれない日常です。私たちはそれをとにかく他人事のように受取り勝ち——予想しないことが起こるのが人生だどつくづく思います。その時浮かんだのが冒頭の言葉です。

歳を経るほどに一日一日を大事にと想う。生きている喜びは身近にありそう、己の思い、感情、個性を表現し、伝えるのもその一つではないでしょうか。

<10月三木芳音での筆者クロッキー →>

(2021.10.5記)



『豊かな時間の共有』

グループホーム世話人 中井

「そよかぜはうす」では、共同生活をより良くするため、利用者さんが月に1度ミーティングをしています。その中で、皆で食事に行きたいという提案があり、月に一度仕事のない土曜日にカレーハウス「モイモイ」のモーニングに行くことになりました。朝、片道1.5km程の道を季節を感じながら歩くのは楽しいものです。8時オープンと同時に入店します。山小屋のロッジのような雰囲気、心が安らぎ、美味しいモーニングを味わうのは、至福のひと時。日常生活の中で、ちょっとした心の豊かさや余裕を持てるのは素敵なことです。コロナ禍でモーニングに行けなかった時もあるので、なおさらそう思います。

これからも利用者さんと少しでも豊かな時間を共有していきたいと考えています。

ーコロナ禍でのオリンピック・パラリンピックを視聴してー 「お・い・あ・く・ま」 理事 片山 操代

先日左親指が痛くなりました。私の体のほんの一部なのに、不自由なことと言ったらありません。物が持てない、タオルが絞れない、ペットボトルさえも開けられないなどなど。

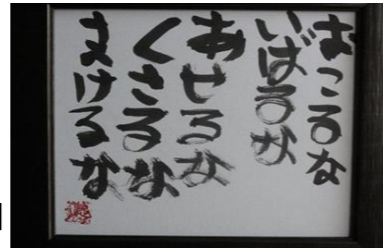
パラリンピックを観ながら「なぜあんなことができるのだろう?」「どんな練習を重ねたのだろう?」「これまでの人生は??」と感動の前に疑問ばかりが浮かびます。

コロナ禍でなかったらもっと多くの人と喜びを生で共有できたことでしょう。

我が家のリビングのことばは数年前の神戸新聞に書かれていたもの。

コロナ禍で再確認することとなりました。イライラ、くよくよ、八つ当たりは止めて前に向かって進みたいものです。 と思いながら、やっぱりひとこと。

「おーい! コロナ! 君が悪魔なら早くどこかに行ってくれー!!」



『そよかぜはうす』や1年が過ぎて… グループホームサービス管理責任者 柴田 真紀

昨年6月からグループホームの事業がスタートし、当初は入居者2名、短期入所(ショートステイ)者2名の利用でした。昨年度は入居者4名まで増え、今年度11月に5名で満室となりました。短期入所のための部屋は1室設けてあり、現在10名の方が登録されています。

利用者は、「自立した生活」をするために、自分で考えて行動できるよう頑張っています。家事などを分担して、みんなで助けあい、協力しながら、自分のできることを増やしていくことが目標です。

短期入所(ショートステイ)をトライしてみたい方、ぜひ『そよかぜはうす』に見学に来て下さいね! また、「どんなところなの??」と興味のある方もいらして下さい。



コロナという感染症

理事 八木 大策

みなさんはコロナに感染した、もしくは身近に感染された方はいますか。私は春に感染しました。仕事柄、不要不急の外出は控えていましたし、感染症対策もとっていたつもりでしたが、誰でも感染する可能性があります。

感染が判明すると保健所が窓口になります。私だけでなく同居の家族も濃厚接触者となって14日間自宅待機になりました。幸い家族は感染しませんでした。仕事を休むなどの迷惑や心配をかけることとなってしまいました。

私は当初ホテルでの療養を希望し、ホテルで療養していました。ところがホテルに入って2・3日後には発熱や肺炎症状が出て、最終的には入院加療となりました。結局、約1か月仕事を休むことになり、あらためてコロナの恐ろしさを身をもって知ることになりました。

みなさんに少しでも知って、気を付けていただけたらと思います。



当法人の事業報告書・決算報告書は、NPO法人ポータルサイトで閲覧できます。 [NPO法人そよかぜねっと] 検索 が楽です。 ホームページは「やすらぎ工房三木」検索

「願い」 就労継続支援B型・グループホーム 管理者 北上 亜矢子
東京オリンピック聖火の採火式が8月12日に三木市でも執り行われました。東京オリンピック・パラリンピックでは、誰もが尊重しあい、多様性を認め合える共生社会の実現が掲げられました。人と違うことや変化は不安や恐れにもなり得ます。ですが、一歩踏み込んだ先(チャレンジも)は道が一歩分増え、視野の広さが拡大した...ただそれだけだったりします。変化した先に何も自身の日々が不自由になることはなく、視点や視野はグンと広がり、自由度は一歩分どころが大きくなります。その積み重ねが、個々人が心豊かに前に進む良いものとなる社会を願います。



数字で見る『やすらぎ工房』 2020年度実績による

利用者	◆利用者数 (R3.3.31現在)	28人	◆通所者延人数(年)	4,156人	
◆利用契約人数	28人	◆1日平均通所者	17.0人	◆開所日数	245日
◆利用者属性	男 12人 女 16人	◆障害種別	精神 19人 知的 13人 身体 2人	◆送迎利用延人数	4,107人 (1日平均 16.8人)

利用者工賃	◆工賃支払い人数(平均)	23人/月	◆退職給付費用	18万円
◆工賃・ボーナス総額(平均)	11,043円/月	◆給料・通勤手当・賞与	1,992万円	
◆工賃平均(月)	6,680円・26人	◆給料・通勤手当・賞与	318万円	
◆ボーナス平均(年3回)	22,535円・24人	◆退職給付費用	2,310万円	
◆工賃支給総額(年)	411万円	◆退職給付費用	18万円	

収入	◆訓練等給付金等	3,856万円	◆会費収入	8万円
◆寄付金・助成金等	216万円	◆寄付金・助成金等	426万円	
◆負担金収入・雑収入等	91万円	◆作業収入	373万円	
◆内職収入等	273万円	◆内職収入等	273万円	
◆計	4,544万円	◆計	5,021万円	

支出	◆給料・賞与・手当等	2,381万円	◆社会保険料	305万円
◆光熱費・通信・旅費等	102万円	◆事務機等使用料・備品	139万円	
◆修繕・消耗品・委託費等	285万円	◆給食費・保険・その他	311万円	
◆減価償却費	129万円	◆減価償却費	129万円	
◆支払工賃(メンバー給料)	411万円	◆作業材料費等	4万円	
◆地代家賃	0万円	◆地代家賃	0万円	
◆計	4,042万円	◆計	4,619万円	

◆収入超過額 499万円

数字で見る『そよかぜはうす』 2020年度実績による

共同生活援助利用者	◆利用契約人数 (R3.3.31現在)	4人	◆利用者延人数(年)	947人
◆利用者属性	男 1人 女 3人	◆月平均利用日数	28日	
◆障害者年金	無 3級 2級 1級	◆開設日数	304日 (2020年6月1日開設)	

短期入所利用者	◆利用契約人数 (空庫型)	8人	◆利用者延人数(年)	234人
◆利用者属性	男 4人 女 4人	◆月平均利用者	5.2人	
◆障害者年金	無 3級 2級 1級	◆送迎利用延人数	133人	

共同生活援助利用者 日中活動先	◆就職先企業	1人	◆就労継続支援B型事業所	3人
◆就労継続支援A型事業所	0人	◆生活介護事業所	0人	
◆生活介護事業所	0人	◆計	4人	

短期入所利用者 日中活動先	◆就職先企業	0人	◆就労継続支援B型事業所	7人
◆就労継続支援A型事業所	0人	◆生活介護事業所	1人	
◆生活介護事業所	1人	◆計	8人	

食事提供数	◆朝食	849食	◆夕食	878食
◆短期入所	90食	◆短期入所	111食	

収入	◆訓練等給付金等	883万円	◆利用者負担金	182万円
◆補助金・助成金等	90万円	◆CH隊員謝金	47万円	
◆新規開設サポート	43万円	◆計	1,154万円	

支出	◆給料・賞与・手当等	980万円	◆社会保険料	50万円
◆光熱費・通信・旅費等	49万円	◆事務機等使用料・備品	0万円	
◆修繕・消耗品・委託費等	71万円	◆給食費・保険・その他	117万円	
◆減価償却費	285万円	◆地代家賃	0万円	
◆計	1,568万円	◆計	1,568万円	

◆収入超過額 586万円

おかげさまで、グループホーム運営開始から1年6か月を迎えることができました。